

製品名: CPT1A ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86496**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	2.4mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,FC 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:88 kDa; Observed MW:88 kDa

抗原情報

遺伝子名	CPT1A
別名	CPT1; CPT1-L; L-CPT1
遺伝子 ID	1374
SwissProt ID	P50416
免疫原	ヒト CPT1A の組み換えタンパク質

背景

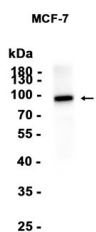
ミトコンドリアにおける長鎖脂肪酸の酸化は、カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ I（外膜に局在し、界面活性剤に対して不

安定) とカルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ II (内膜に局在し、界面活性剤に対して安定) が、カルニチン-アシルカルニチン
トランスロカーゼとともに順次作用することで開始されます。CPT I は、ミトコンドリア内膜を介したカルニチン依存性輸送におけ
る鍵酵素であり、その欠損は脂肪酸 β 酸化速度の低下をもたらします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的
スプライシング転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



CPT1A ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した MCF-7 細胞抽出物のウェスタン
ブロット分析。